GLOBAL REACH OF RUGBY 2019

カントリー

ツールキット

日本

WORLD RUGBY

日本

ワールドラグビー 、サー・ビル・ボーモント会長から一言:

「ラグビーワールドカップ2019 は日本のラグビーにとって重要なゲームチェンジャーとなった大会でした。ブレイブ・ブロッサムズの驚きのパフォーマンスに並んで記録的な経済効果と視聴者数を生むなど、Japan 2019 はピッチ内外において大成功を収めました。ラグビーワールドカップによって、日本の新規ラグビープレーヤーがこれまで以上に増加し、多くの少年少女、男子女子の参加を促したことはとても重要です。」

「今後も日本におけるラグビーの益々の繁栄を実現させていくため、この成長を踏み台に更なる拡大に繋げ、引き続き日本ラグビーフットボール協会、アジアラグビーと緊密に協力しながら取り組みを続けていくことを期待しています。東京オリンピック大会は、RWC 2019 のレガシーを更なる成功につなげ、ラグビーセブンズに注目を移しながら日本のラグビーの更なる拡大を図る格好の機会を提供してくれます。」

- ラグビーワールドカップ 2019 開催した後、このスポーツへの関心は日本全国で急上昇した。日本のラグビーファン人口は 138 パーセント増加し、熱心なファンの人口は 2018 年に比べ 4 倍に伸びた。
- 男子・女子ラグビー共に拡大。男子ラグビーへの関心度は 37 パーセントから 59 パーセントに上昇し、女子ラグビーへの関心度も 28 パーセントから 47 パーセントに上昇した。
- 日本人の 85 パーセントがこの大会開催によってラグビーの人気が上がるだろうと答えており、225 万人（その多くが初めてラグビーを体験）が Impact Beyond レガシープログラムに参加するなど、ラグビーワールドカップ 2019 は日本において長く続くレガシーを残した。
- ラグビーワールドカップ 2019 は 43 億ポンドの経済効果を生み、また世界中で 8 億 5700 万人が試合を観戦するなど、史上最も経済的に成功し、最も視聴・観戦されたラグビーイベントとなった。

2019 年、ワールドラグビー はニールセン社に調査を依頼し、17 カ国を対象にデータ収集を行い、世界のラグビーの現状と、ワールドラグビー とより広範におけるラグビーファミリーが果たした過去 1 年間の進捗状況についての理解を深めた。

データを纏めるにあたりニールセン社は、2019 年 11 月に 30 分間の深掘りインタビュー調査を行った。このインタビュー調査は、ラグビー伝統国 11 カ国及び新興国 5 カ国を対象に、1 カ国当たり 500 名の代表的回答者と 500 名のラグビーフォロワー回答者を選んで実施した。

また同社 SportsDNA の世界的調査の一環として、36 カ国で「ラグビーユニオンにどのくらい興味があるか？」という質問を行った。この質問に対する回答に基づき、「ラグビーフォロワー （少し興味がある～非常に興味がある）」、「ラグビーファン（興味がある～非常に興味がある）」、そして「熱心なファン（非常に興味がある）」のカテゴリーにそれぞれ分類し、人数の推計を行った。

ニールセン社はその後、回帰分析を用いた統計技術を使ってその他 49 カ国のラグビーファン人口を予測し、85 カ国に関する全体的な状況を浮き彫りにした。

ニールセン社のファンの規模推計方法は SportsDNA（世界的にシンジケートされた追跡調査）に基づく。SportsDNA 調査では各国の 16 歳から 69 歳までの代表的回答者として少なくとも 1000 人を選んで調査した。外挿に用いた人口は、調査サンプルに代表される集団として 16 歳から 69 歳の各国の総人口をベースにしている。

画期的なこのラグビーワールドカップの開催によって日本中でラグビーへの関心が急増し、2019 年は日本のラグビーにとってゲームチェンジャーの 1 年となった。この大会は日本国民の心を掴み、大会が日本で開催されていたことについて知っていた人の 68 パーセントが、この大会は 2019 年に観た中で最高のスポーツイベントであったと答えている。大会のテレビ放送累積推計視聴者数は 4 億 2500 万人に上り、大会をフォローしていた日本人は膨大な人数だったことがわかる。

日本のラグビーの観戦者とプレーヤーの数は共に史上最高を記録しており、このラグビーワールドカップは今後長く続くレガシーを残した大会となった。アジア全域の 225 万人に上る少年少女・男女が Impact Beyond プログラムに参加し、レガシーは既に形となっている。大会後における日本人のラグビーファンの数は、2018 年に比較して 138 パーセント増加。熱心なファンの数は 2018 年比較で 4 倍に増加した。

ラグビーは日本で益々人気を高めている:

- 人口の 16 パーセントが熱心なラグビーファンであり、2018 年との比較で 300 パーセント増。
- 人口の 38 パーセントがラグビーファンであり、2018 年との比較で 138 パーセント増加。
- 人口の 60 パーセントがラグビーのフォロワーであり、2018 年との比較で 62 パーセント増。

日本における男子ラグビーの拡大:

- 男子ラグビーへの関心の高まり。2018 年には、関心度が 37 パーセントから 59 パーセントに拡大した。

日本における女子ラグビーの拡大:

- 女子ラグビーへの関心の高まり。2018 年には関心度が 28 パーセントから 47 パーセントに上昇した。

日本における七人制ラグビーの拡大:

- セブンズへの関心の高まりは、2018 年に 36 パーセントから 53 パーセントに上昇した。

日本におけるラグビーに対する肯定感:

- ラグビーはポジティブな模範を示すと考えているフォロワーの割合は 2018 年の 39 パーセントから 61 パーセントに上昇し、前年比で顕著な伸びを示している。

ラグビーワールドカップ 2019 は日本国民の心を掴んだ:

- 日本における男子ラグビーのファンのほぼ半数がこのスポーツに興味を持ち始めてから 1 年足らずであり、新規ファンが急増している。これはラグビーワールドカップ 2019 開催による直接的結果である。

- 大会について知っていた人のほぼ 1/3 が 6 試合以上を生中継で観戦しており、試合/ハイライトを見なかった、またはニュースを追っていなかった人は 10 人中 1 人以下だった。

RWC 2019 が日本に与えた大きな影響

- 日本人の 87 パーセントが、ラグビーワールドカップ 2019 は日本国民の想像力を掻き立てたと答えており、88 パーセントがこの大会によって日本のラグビーの水準が高まるだろうと答えている。
- 85 パーセントは、大会が進むにつれて日本代表チームを応援する日本国民全体の気運が高まったと答えた。
- 日本での開催を知っていた日本人の 84 パーセントが、ラグビーワールドカップはスポーツマンシップとフェアプレーの精神の下でプレーされていたと答えた。
- 日本での開催を知っていた日本人の 88 パーセントは、ラグビーワールドカップが初めてアジアで開催されたことはラグビーにとって良いことだったと答えた。
- 大会について知っていた人の 85 パーセントが、ラグビーワールドカップ 2019 年大会のおかげでラグビーの人気がより高まるだろうと答えている。
- 大会について知っていた日本人の 68 パーセントが、この大会は 2019 年に観たイベントの中で最高のスポーツイベントだったと答えている。